

日本観光研究学会 2016年度全国大会シンポジウム 日本人の美意識は観光資源

我が国には約2000万人の外国人が訪れ、2020年には4000万人の訪日観光客の達成を目指しています。急増しているインバウンドは、中国人を中心とした買い物観光が多いのですが、こうした傾向は一時的な現象と考えられます。持続可能な観光を目指すのであれば、日本の伝統や文化を体感できる、より本質的な観光を志向することです。

我が国の観光資源のうち、日本の伝統・歴史、慣習、文化に対する外国人の関心は高く、その質は高く評価されています。歴史的に見ても、日本の美意識が近代の世界の国に刺激を与えてきたことは事実であり、かつて建築家のブルーノ・タウトは日本建築に、「最大の単純の中の最大の芸術の典型を見出し、自然との親密さから独自の文化を創造している」と指摘しました。

今回のテーマは、観光の普遍的な課題、「伝統と現代をつなぐ」ことで、日本人が培ってきた感性や美意識をどのように観光に活かせるか、日本を代表する建築家、デザイナー、伝統芸能後継者、伝統的祭事研究者から日本の観光の本質に迫り、そのさらなる成長と発展に貢献し、日本の美、日本人の美意識を海外に発信したいと思います。

1. 基調講演——13:10—14:10 「未来資源としての日本」原 研哉
14:15—15:15 「森の時代」隈 研吾
2. パネルディスカッション——15:30—17:00 パネリスト＝原 研哉・隈 研吾・鶴澤寛也・阿南 透
コーディネーター＝鈴木輝隆

プロフィール



原 研哉 | はら・けんや

武蔵野美術大学教授、株式会社日本デザインセンター代表
日本を代表するデザイナー。デザインを社会に蓄えられた普遍的な知恵ととらえ、コミュニケーションを基軸とした多様なデザイン計画の立案と実践を行っている。日本デザインセンター代表。武蔵野美術大学教授。無印良品アートディレクション、代官山蔦屋書店 VI、HOUSE VISION、らくらくスマートフォン、2014年より外務省「JAPAN HOUSE」総合プロデューサーなど活動の領域は多岐。一連の活動によって内外のデザイン賞を多数受賞。著書『デザインのデザイン』（岩波書店刊、サントリー学芸賞）『白』（中央公論新社刊）は多言語に翻訳されている。



隈 研吾 | くま・けんご

東京大学教授、隈研吾建築都市設計事務所主宰
新国立競技場や伝統文化の象徴である新歌舞伎座などを手掛ける日本を代表する建築家。主な作品は、「森舞台／登米市伝統継承館」（日本建築学会賞受賞）、「馬頭広重美術館」（村野賞）、グレート・バンブー・ウォール（北京）、サントリー美術館、根津美術館（毎日芸術賞）、梶原木橋ミュージアム（芸術選奨文部科学大臣賞）、浅草文化観光センター、長岡市役所、中央郵便局KITTE、富山キラリ・富山市立ガラス美術館・図書館、プザンソン芸術文化センター（フランス）、中国美術学院杭州市民芸博物館など、多数。著書は、『自然な建築』『小さな建築』『建築家、走る』など。



鶴澤寛也 | つるざわ・かんや

一般社団法人義太夫協会
多方面で活躍中の女流義太夫三味線奏者。1984年鶴澤寛八に入門、1993年豊澤雛代の預かり弟子、2007年鶴澤清介の預かり弟子。2009年義太夫節保存会会員となり、重要無形文化財総合指定保持者に認定される。『女流義太夫はなやぐらの会』主宰。京都造形芸術大学非常勤講師。邦楽演奏会、NHK邦楽番組出演のほか、様々なイベント・レクチャー・アマチュアの指導などを通じ、女流義太夫の普及にもつとめている。（社）芸団協助成新人奨励賞、（財）清栄会奨励賞、（財）ポーラ伝統文化財団ポーラ賞奨励賞など多数受賞。



阿南 透 | あなみ・とる

江戸川大学教授・現代社会学科長
日本の伝統的な祭り「ねぶた」研究の第一人者。日本観光研究学会学術委員。民俗学専攻。1997年から毎年欠かさず青森ねぶた祭に通い続け、ねぶたの海外遠征にもたびたび同行している。2014年からは審査委員に就任。ねぶたを、観光学、民俗学の視点だけでなく芸術面にも着目して研究している。著書に『青森ねぶた誌』（共著、青森市）、「『東北三大祭』の成立と観光化」（『観光研究』22-2）、「青森ねぶた祭におけるねぶた題材の変遷」（『情報と社会—江戸川大学紀要』21）、「芸術としての青森ねぶた」（鈴木正崇編『森羅万象のささやき—民俗宗教研究の諸相』風響社）など。



鈴木輝隆 | すずき・てるたか

江戸川大学特任教授
資源家（地域クリエイター）。地域の自立には美意識のあるデザインが必要と、地域とクリエイターを結び、共有価値から地域経済を創出している。その成果は松屋銀座で「みつばち先生鈴木輝隆展」（日本デザインコミッティー）を開催。創出した共有価値は、北海道清里町「しゃがいも焼酎」、東京都八王子市「TAKAO 599 MUSEUM」、山梨県甲州市勝沼町「中央葡萄酒」、北海道東川町、青森県鯉ヶ沢町、長野県小布施町、愛媛県内子町石畳、日本遺産人吉球磨など多数。著書は、『ろーかるでぎいんのおと（田舎匠匠帳）』、『みつばち先生—ローカルデザインと人のつながり』など。